

CSR report 2023

ホーチキグループCSR報告書 2023年3月期



安全・安心の社会構築に向け、 CSR活動を推進してまいります

ホーチキ株式会社 代表取締役社長執行役員

細井 元



CSRの原点は経営理念にあります

ホーチキグループは経営理念として「人々に安全を」「社会に価値を」「企業をとりまく人々に幸福を」を掲げています。この経営理念を守り、行動規範とすることが私たちの使命であり、CSRの原点であると考えています。

経営理念を原点に、製品やサービスを通し、「災害による犠牲者がゼロの世の中」を目指し、常に挑戦することが私たちのCSRであり、その達成に努めてまいります。

経営理念の実現にはコンプライアンスが定着しなくてはなりません

品質やデータへの信頼性が社会問題となっていますが、安全・安心を提供する企業としては万が一にもこのようなことがあってはなりません。当社グループでは「家族に胸を張って話せますか」と題したコンプライアンスポスターを協力会社も含めて配付、掲示しております。また、全国各地で行われる安全衛生協力会主催の「安全大会」ではコンプライアンス研修を実施するなど、コンプライアンス意識の定着に努めています。これらは各自が安全・安心を提供しているという気持ちをいつも持ち続けて行動するためです。そのためにも、日々の仕事の中にCSRを取り込み、コンプライアンス意識が浸透、定着する取り組みを継続してまいります。

経営理念の具現化のためのCSR活動を今後も展開していきます

CSRを展開し経営理念を具現化するためには、経営の安定性は欠くことのできないことです。そのためにも、CSRを仕事に対する意識を高める活動に組み込み、経営の安定化に努めてまいります。

当社は2018年に創立100周年を迎えました。100年を越えてなお、この取り組みを継続させ、グループ会社、協力会社が一体となり、安全・安心の社会を構築するCSR活動を推進してまいります。

ホーチキの経営理念

人々に安全を

災害の防止をとおして人命と財産の保護に貢献する

社会に価値を

社会に価値ある商品とサービスを供給する

企業をとりまく人々に幸福を

従業員と株主、協力者および地域社会の人々に豊かな生活と生き甲斐のある場を提供する

ホーチキグループのCSR

ホーチキグループは、経営理念である「人々に安全を」「社会に価値を」「企業をとりまく人々に幸福を」を具現化することが、すなわち企業の社会的責任(CSR)を果たすことであると認識し、お客様をはじめとして、従業員、お取引先、地域住民、株主様など幅広いステークホルダーとの双方向のコミュニケーションを図り、社会の構成員として、持続可能な安全で安定した社会の構築に貢献する企業となる。

2009年9月制定

編集方針

「ホーチキグループCSR報告書2023」は、ホーチキグループの2022年度のCSR(企業の社会的責任)への取り組み、考え方についてステークホルダーの皆さまに分かりやすく伝えることを目的として発行します。

ホーチキは、「安全・安心を提供し、人命と財産を守り社会に貢献すること」が使命であり、社会的責任と考えており、1918年の創立以来この使命に真摯(しんし)に取り組み、グループ会社への展開を図ってきました。

本レポートでは、取り組みや活動の一環をCSR活動として、経営トップの考えや公正な企業活動、品質への取り組み、社会とのかかわり、環境への取り組み、人材育成などをデータと共に報告いたします。

CONTENTS

経営者からのメッセージ	1	製品について	7
編集方針	2	従業員とのかかわり	9
会社概要	3	製造拠点での取り組み	10
事業内容	4	環境への取り組み	11
公正な企業活動	5	環境会計	12

報告対象組織

ホーチキグループ全体の活動について報告します。

報告対象期間

2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日)

会社情報

商号 ホーチキ株式会社
 所在地 東京都品川区上大崎二丁目10番43号
 設立 1918(大正7)年4月2日
 資本金 37億9,800万円(東京証券取引所 プライム市場)
 従業員 単独1,449 連結2,184 (2023年3月31日現在)



主なグループ会社

■国内

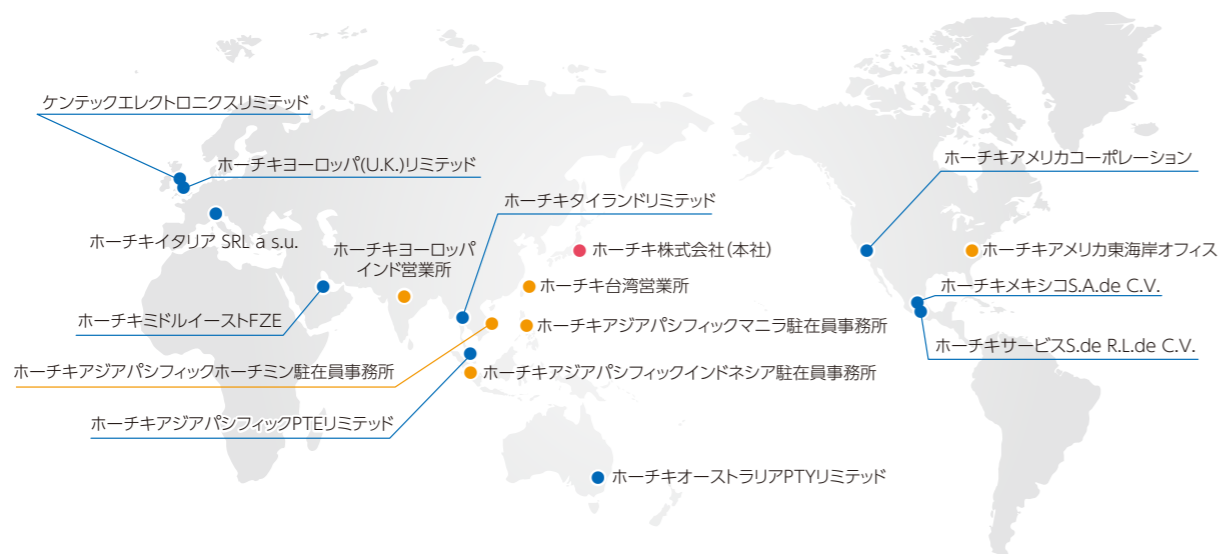
ホーチキ商事株式会社
 ホーチキ茨城電子株式会社
 ホーチキエンジニアリング株式会社
 関西ホーチキエンジニアリング株式会社
 水戸ホーチキ株式会社
 株式会社ディーディーエル

■海外

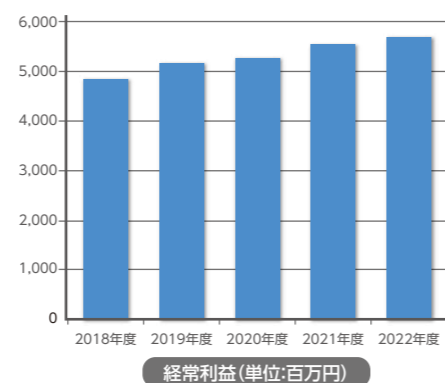
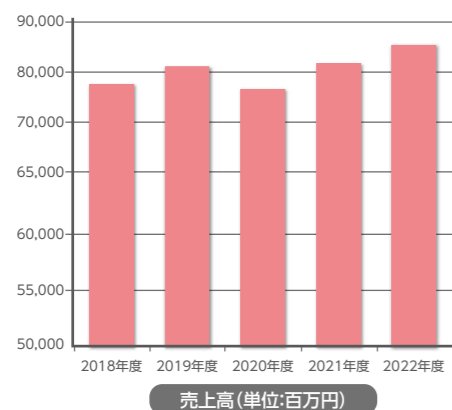
ホーチキアメリカコーポレーション
 ホーチキヨーロッパ(U.K.)リミテッド
 ホーチキオーストラリアPTYリミテッド
 ケンテックエレクトロニクスリミテッド
 ホーチキアジアパシフィックPTEリミテッド

ホーチキグループのグローバルネットワーク

● 海外グループ会社 10拠点 ● 営業所・駐在員事務所 6拠点 (2023年3月31日現在)



売上・経常利益



事業内容

日本初の防災専門メーカー

日本が近代化への整備を急いでいた大正時代の初頭、防災面でのインフラ整備も大きな課題でした。この頃は警視庁が警察行政と消防行政の両方を担当しており、首都である東京市に火災報知設備の設置が計画されました。そんな時代の要請を受け、1918(大正7)年4月2日、損害保険会社13社と生命保険会社3社などの出資のもと、「東京報知機株式会社」(のちのホーチキ株式会社)が創立され、火災報知機を開発しました。1920(大正9)年、日本で最初の公衆用火災報知機を東京・日本橋に設置しました。

ホーチキグループは創立以来、コンサルティングから研究・開発、製造、販売、設計・施工、メンテナンスまで、一貫体制をとって、安全・安心をより確かなものにしていきます。



▶ 火災報知設備



センサーで火災を自動的に検知し、音響装置(ベル等)で建物内に報知することで、避難と初期消火活動を促進。自動火災報知設備で人命と財産を守ります。

主な製品

- 自動火災報知システム(P型、R型)
- 無線式自動火災報知システム
- 超高感度煙監視システム
- 住宅用火災警報器等



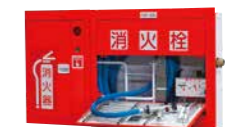
▶ 消火設備



火災時に水やガスで初期消火を行う消火設備で人命と財産を守ります。

主な製品

- スプリンクラー設備
- 泡消火設備
- 放水銃システム(大・中・小規模)
- トンネル(道路)非常用設備等



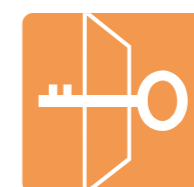
▶ 情報通信設備



テレビ共同受信システムやCATV・光伝送システムでテレビの視聴環境を快適に整えます。また、非常放送設備やインターホン設備、監視カメラ設備で、社会に安全・安心を提供します。

主な製品

- テレビ共同受信システム
- 非常放送設備
- インターホン設備
- 監視カメラ設備等



▶ 防犯設備等



建物への出入り・人の流れを管理する入退室管理システムで、建物への不正侵入や情報漏えいを防止し、社会に安全・安心を提供します。

主な製品

- 入退室管理システム
- 鍵管理システム
- 電気錠制御システム等



公正な企業活動 ①

ホーチキグループは、経営理念を具現化し、社会に価値ある企業として存続していくためにガバナンスの仕組みを作り、また、リスクマネジメントは、ステークホルダーを含めた社会全体に対する責任であることを自覚し、積極的に推進していきます。このためにも、ホーチキグループの従業員一人ひとりが誠実に適切な行動を心掛けなければならないと考えています。

コーポレート・ガバナンス

■基本的な考え方

当社は、グループ共通の経営理念として「人々に安全を」「社会に価値を」「企業をとりまく人々に幸福を」を掲げ、防災事業を核とする企業活動を通して、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を目指した経営を展開しています。その実現のためには、健全で透明性の高いコーポレート・ガバナンスの充実が不可欠であるとの認識の下、コーポレートガバナンス・コードの各原則を尊重することを基本の方針に置き、株主の皆様を始めとするステークホルダーとの間に良好かつ信頼ある関係を構築することが、経営上の重要課題の一つであると考えています。

リスクマネジメント

■基本的考え方

リスクマネジメントの目的は、自然災害や火災等の発生を予め想定し、人命と財産の保護および秩序だった復旧を行うための情報伝達網を構築すること、ならびに事件・事故や品質問題など社会全般や会社の事業遂行上に重大な影響を及ぼす事象に対しては、発生を防止するとともに万一発生した場合には、影響を極小化し、社会的損失を発生させないような行動をとり、速やかに復旧回復できるようリスクの洗い出しを行い、その対処方法などを事前に明確化することで、社会の安全と会社の安定を守ることにあると考え、その推進に努めていきます。

■行動指針

- 常にリスク管理を経営の重要課題と意識し、企業の価値を高める。
- 経営資源の保全と万一経営資源に損害が生じた場合には、適切・迅速な復旧を図る。
- ホーチキグループの人々の安全と健康の保全を図る。
- リスクが発生した場合は、迅速に責任ある行動をとる。
- リスクに関連する社会的要望や要請については、誠心誠意検討し、リスク管理に反映する。

■BCP(事業継続計画)の策定とマネジメント

ホーチキグループで取り扱っている製品は、いざという時にその役割を果たすものです。災害時にこそ、その真価が問われるものと考え、「安全・安心」を提供する総合防災企業として、重要な責務である「製品の供給及び生産の継続」、「営業、施工、メンテナンス等サービスの継続」という観点から、事業継続を果たすための具体的計画である事業継続計画(BCP: Business Continuity Plan)を策定しています。ホーチキグループではBCP策定と維持を目的にBCM(事業継続マネジメント)推進事務局を設け、BCPの内容を具体化した「事業継続計画(BCP)基本計画書」を策定しています。

また、事業継続計画(BCP)基本計画書に基づいて「PDCAサイクル」を回し、常にBCPの適正化を図るBCM(事業継続マネジメント)に取り組み、事業継続に努めていきます。

■BCP訓練の実施

BCMにおいては平常時の訓練が欠かせません。当社では年に一度火災を想定した防災訓練を行っているほか、本社事業所、製造拠点(町田事業所、宮城事業所)において大規模災害の発生を想定したBCP訓練を行っています。訓練では各部門における初動対応(安全確保、安否確認等)、重要業務への対応などを確認しています。



●本社事業所 BCP訓練



●町田事業所 BCP訓練

■新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症に対しては、従業員、取引先をはじめとするステークホルダーの健康や安全、感染拡大の防止に努めることを最優先に、業務維持・向上のための活動と両立できるようバランスを図りながら対策を進めております。当社グループでは、次のような施策を実施いたしました。

- オフィス内での感染、クラスター(集団感染)発生防止を図るため、消毒液の配備と飛沫防止パネル(段ボール・アクリル板)を設置するとともに、検温モニターの設置も進めました。
- 三密状態(密閉・密集・密接)を回避するため、出勤率を抑えるよう、在宅勤務、時差出勤(スライドワーク)、直行直帰等、柔軟な働き方を進めました。
- リモート環境でも従業員間のコミュニケーションが円滑に図れるよう、会議室内にWeb会議関連機器を拡充しました。



●オフィス内の飛沫防止対策(アクリル板)



●Web会議の拡充

コンプライアンス

■コンプライアンス推進の強化

企業の管理、コンプライアンスの重要性は一段と高まる傾向にあり、2014年6月に会社法も改正され内部統制システム、とりわけコンプライアンスの推進等の強化が求められています。このような状況の中、ホーチキグループでは関連する諸規程を改訂し、リスク管理及びコンプライアンス体制を確立し、対応力の強化を進めています。

- ・「リスク管理・コンプライアンス委員会」を設置し、コンプライアンス推進体制を構築
- ・リスクの種類ごとに「リスク統轄部所」を設置、全社横断的なリスクを統轄
- ・主要部所に「リスク管理・コンプライアンス推進管理者」の配置

■具体的な推進活動

①「リスク管理・コンプライアンス推進管理者会議」

2022年度はコロナ感染拡大防止のため、WEB会議にて実施しました。

②「コンプライアンス推進強化月間」の設置

コンプライアンスマインド養成、推進を目的とした全社運動として、「コンプライアンス推進強化月間」を設置、コンプライアンス意識調査を実施し、コンプライアンスマインドの養成、コンプライアンス推進の糧としました。

③協力会社コンプライアンス教育の実施

2021年度はコロナの関係で開催を見送りました。

④コンプライアンスハンドブックの配付

コンプライアンスに関する社内規程の他、分かりやすい事例と解説を盛り込み、国内グループ会社を含む全従業員に配付、これを活用して一人ひとりが日頃の業務の中でコンプライアンスマインドの向上に努めています。

⑤「リスク・コンプラ通信」のイントラネットへの掲示

コンプライアンス関連規程の制改定等について理解と浸透を図るため、その概要を判りやすくまとめた「リスク・コンプラ通信」を作成、社内イントラネットへ掲示しています。

⑥その他の取り組み

- **コンプライアンス研修・・・**
コンプライアンスは知識の修得ではなく意識の問題であるとしてとらえ、新入社員は入社時に その他の従業員は昇格者研修など階層別に実施しています。
- **社内報に記事を掲載・・・**
四半期ごとに発行される社内報「ホーチキさろん」に「内部正のコンプライアンス教室」を連載、毎号身近なテーマを選び判りやすく解説しています。

製品について

ホーチキグループでは、最新の製品情報やサービスをホームページや展示会等で、わかりやすく紹介しています。イベントや各種展示会では、防災・減災をテーマに安全・安心への取り組みをステークホルダーの方々にお伝えするように努めています。ここでは出展した主な展示会をご紹介します。また品質への取り組みについてもご紹介します。

■ドバイの展示会「Intersec 2023」



開催日：2023年1月17日(火)～1月19日(木)

開催場所：ドバイWorld Trade Centre

ホーチキドバイでは新避難誘導灯やUL新規格対応感知器をメインとして展示。

■「SECURITY SHOW 2023」



開催日：2023年2月28日(火)～3月3日(金)

開催場所：東京ビッグサイト

弊社のブースでは入退室管理システムやアライアンス製品（フラッパーゲート、顔認証電子錠システムなど）、DX事例および動的避難誘導灯を展示。

品質への取り組み

■品質に対する取り組みは重要なCSR活動ととらえ、品質について包括的に取り扱う品質本部を2016年に設立しました

ホーチキグループでは製品の品質はもとより、防災設備の施工、保守点検ほかあらゆるものに品質があると認識し、品質への取り組みを高めることで安全で安心な社会の構築に寄与できるよう努めてきました。ホーチキ製品の品質は機能や性能の安定を追及していただくだけでなく、製品のライフサイクルを考慮して、環境に与える影響も品質の一つと捉えています。このため2015年度に稼働を始めた『信頼性試験センター』の機能を充実させ、品質重視の姿勢をより高めています。また、地球環境負荷低減と法令遵守の観点からRoHS指令や紛争鉱物開示規則への対応を促進しています。

■RoHS指令への取り組み

弊社が製造する電気電子機器製品は、RoHS指令の対象カテゴリの監視・制御機器一般に該当します。弊社は、製品設計、生産ライン、検査分析等の体制を見直し、ホーチキヨーロッパ(U.K.)リミテッドがEU及びUAE向けに販売する弊社製品について、RoHS 指令への適合を完了いたしました。弊社は、EU向けだけでなく全世界に販売するホーチキブランドの製品(電気電子機器)を対象に、RoHS 指令に準拠させる取り組みを促進いたします。

■紛争鉱物(Conflict Minerals)開示規則への対応

弊社は紛争鉱物の使用状況に配慮したお客様の調達活動を支持し、取引先と協力して得られた情報を個別に提供してまいります。



●信頼性試験センター 試験設備

社会との関わり

■清掃活動の実施

地域社会貢献活動の一つとして、当社拠点の周辺地域における清掃活動に継続して取り組んでいます。2022年度の活動状況は次のとおりです。

実施拠点：本社事業所、町田事業所

■寄付実施

トルコ・シリア地震における被災者と医療活動の支援として、「日本赤十字社」と「国境なき医師団」の各団体に寄付を実施しました。

■モノづくり体感スタジアム2022 オンライン

2022年8月2日(火)と8月3日(水)、Web上で開催された子供向けイベント「モノづくり体感スタジアム2022」に出展し、電気回路を組みペーパークラフトの発信機を手作りする企画を実施しました。



従業員とのかかわり

ホーチキグループでは「経営理念に共感し仕事を通じて自己実現を図り、かつ企業価値を高める」ことを目標に掲げ、多様性と専門性をもつ人材育成、ワークライフバランスのとれた活気のある職場づくりが事業の継続につながるものと考えています。

人材育成

教育・研修を通して、各人の職務遂行能力の向上と豊かな人間力の形成を行い、自己実現や自己成長に繋がっていきます。

■資格取得教育

業務上必要な資格取得に掛かる費用を会社が負担し、積極的に支援しています。

- 支援資格：消防設備士、防火対象物点検資格者、電気工事施工管理技士、管工事施工管理技士、監理技術者等

■自己啓発教育

自己啓発として通信教育講座は能力開発、メンタルヘルス、語学、資格取得など幅広い分野の講座を提供、費用の援助をしています。

■集合研修

各階層別教育、部門別教育、アセスメント研修などを実施しています。情報交流の場として単に教育の場の提供に留まらず、社員間の繋がりに努めています。

■2022年度実施の主な教育と受講者数

新入社員教育	53名	5等級昇格者教育	14名
中途採用教育	68名	6等級昇格者教育	12名
3等級昇格者教育	43名	アセスメント研修	88名
4等級昇格者教育	34名	エキスパート研修	7名

注：2, 3年目教育については、対面教育が前提となるため2022年度は開催を見送り。



ワークライフバランス

労働時間適正化の取り組みを促進するとともに、労使間の懇談を通して働きやすい職場づくりに努めています。

■年次有給休暇取得推進

各人、年次有給休暇取得予定を年間で計画し、年間目標日数以上の取得を推進

■フリーアドレスの展開・サテライトオフィスの設置

業務を行う場を選択できるようにすることで、働き方の多様化・移動時間の削減を伴う効率化を推進

■労使間での意見交換会

毎年2回、各職場において会社・労働組合とで意見交換会を開催。その中で効率的な働き方や休暇の取得推進等、様々な職場改善の協議を実施

■変形労働時間制の活用促進

現業に即した勤務形態に対応できるよう、全社的に変形労働時間制勤務の活用を推進、労務管理に関するオンライン教育を実施



安全衛生

■安全管理

「安全第一主義の徹底」を安全衛生管理基本方針とし、各種活動を通じて1年間の災害ゼロを目指しています。

- 安全パトロールの積極実施
- 定期的な安全協議会の開催
- 毎年6月に各地区で安全大会を実施

■交通安全

社有車には危険挙動を管理者に知らせるシステムを導入、運転技術未熟者に対する運転技能講習受講

■健康管理

- 長時間労働対策：産業医又は地域産業保健センターでの医師面談の実施。
- 受動喫煙対策：完全分煙空気清浄機設置
- メンタルヘルス対策
 - ・ストレスチェックの実施
 - ・外部機関による電話・メール相談の活用
 - ・産業医や、地域産業保健センターを利用した健康相談
- インフルエンザワクチンの接種代金の一部補助
- 健康経営優良法人の認定取得

製造拠点での取り組み

ホーチキグループでは「技術生産本部・本部環境方針」に基づき、持続可能な社会の実現に貢献できるような製品開発において環境保全に取り組み、環境負荷低減に努めています。

各事業所の取り組み



■町田事業所

1962年に設立され、設立当初から最先端テクノロジーを結集。自動火災報知設備や消火システムの受信機をメインに製造しています。1999年にISO9001、2001年にISO14001を取得。

- ISO14001に従った環境保全活動を実施しています。

- BCP(事業継続計画)からBCM(事業継続マネジメント)へ

「BCP基本計画書」に基づき、生産事業の損害を最小限にとどめ、生産の継続、あるいは早期復旧を目的としBCP訓練を実施しました。

- 地域社会とのかかわり

町田事業所では自衛消防隊を組織しており、町田消防署管内の事業所による自衛消防技術発表会へ参加するなど地域社会とのかかわりを深めるように努めています。



■宮城事業所

1969年に操業を開始、1991年に工場を移転設立、2016年に第二工場を設立し、製造工程のテクノロジー化・省力化を推進。各種感知器や、防災・セキュリティ機器等、大量生産品から少量多品種まで幅広い生産に対応しています。

- 町田事業所と同様にISO14001に基づく環境保全活動を実施しています。

- 再生可能エネルギーの使用による省資源化

事業所内に風力発電及び太陽光発電施設を有し、その電力を生産エネルギーとして利用し、温暖化物質の排出低減に努めています。

- 地域社会とのかかわり

事業所周辺の清掃活動を年2回実施しているほか、周辺企業と連携して阿武隈川河川敷のごみ収集をするなど、地域貢献活動を実施しています。



■総合防災実験場

1995年に建設された世界最大規模を誇る大空間実験室を有する防災実験場です。

総合防災実験場は、火災性状や消火能力の研究および製品開発を外部環境の影響を受けずに実験可能な施設です。近年、建築物の大型化や高層化に伴い、防災設備も従来の設備に比べて高い性能と機能が要求されます。ホーチキグループでは、多様化した社会のニーズに応えるため、総合防災実験場の設備を最大限に活用し、社会に貢献できる研究・製品開発をおこなっています。



■総合防災実験場MEMO

- 所在地：宮城県角田市江尻字前原105-3
- 建物の大きさ 長さ…133m 幅…25m 高さ…26m
- 大空間実験棟 長さ…120m 幅…25m 高さ…26m 床面積…3,000㎡

環境への取り組み

ホーチキグループは、人々の生命や財産を守ることを事業展開の中核にしている総合防災企業です。地球環境への取り組みも大きな意味では、この事業展開と通じるものがあります。企業活動において従業員一人ひとりが環境問題を意識し、その対策を推進することにより、地球環境に優しい商品・サービスの提供に努めています。

ホーチキの環境への取り組み

ホーチキグループは「CSR活動取り組み施策」において環境保全活動の推進による環境と調和した社会の実現に向けて、環境に与える負荷を低減し、限りある資源を有効活用するなど環境を重視した企業活動を推進することといたしました。環境負荷低減策として、風力発電設備など再生可能エネルギーを導入、積極的な展開をしています。



「ISO14001」の認証書
(町田事業所)



■グリーンカーテンによる省エネルギー対策

ホーチキ本社ビルのグリーンカーテンも、夏の風物詩として定着しています。グリーンカーテンはゴーヤを中心に、きゅうり、ナス、オクラ等も栽培いたしました。大型のプランターからネットの上へ上へと競い合うようにツルが伸びていきました。
ホーチキのグリーンカーテンが、ビルの一部でも温度を下げ、良い環境の一助になればとの思いで、今後も取り組んでまいります。

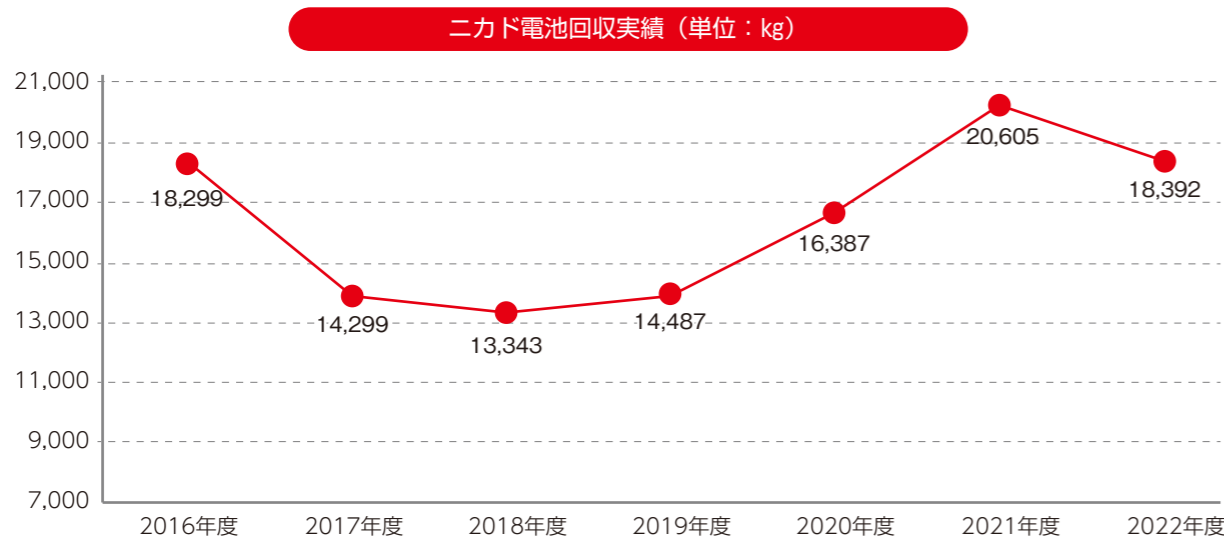
■ペーパーレス化の促進

コピー用紙の利用率削減を図るため、ペーパーレス会議の推進を行っております。役員・部長等の幹部社員全員にタブレットを支給する他、ノートパソコンへの切り替えを行う等、ペーパーレスな環境で仕事ができる環境整備に努めております。

■小型蓄電池の回収

「資源の有効な利用の促進に関する法律」が2001年に施行され小型充電式電池の回収、再資源化が義務付けられました。ホーチキグループでは、点検時に不要となったニカド電池を積極的に回収して「一般社団法人 JBRC」を通じ再資源化に努めています。

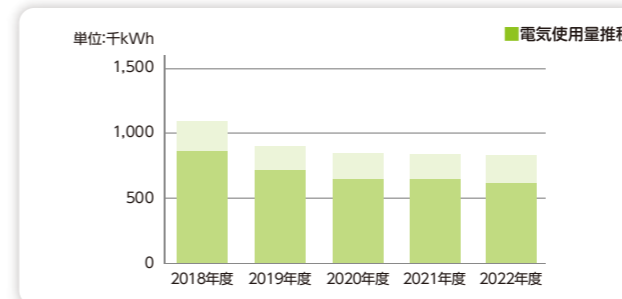
- 2022年度は44の回収拠点から約18トンが回収されました。



環境会計

ホーチキグループでは、「地球温暖化防止への貢献」を経営の重点テーマとして掲げており、「脱炭素社会」の実現に向け、地球環境に配慮した事業活動に努めています。

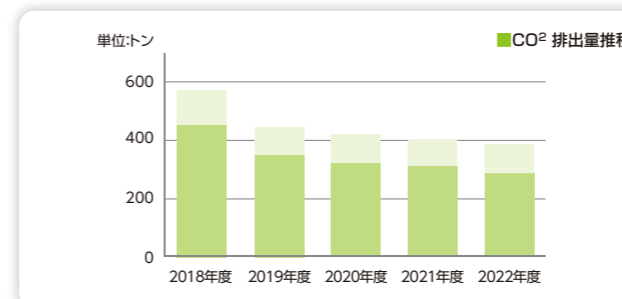
温室効果ガス排出削減の取り組み



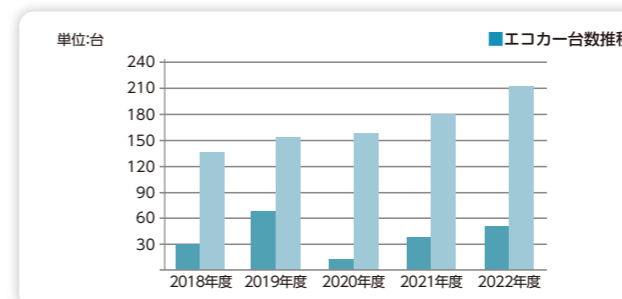
■電気使用量の低減

- ・LED照明への切り替え
- ・エアコン設定温度の適正化
- ・クールビズの実施

- 2022年度電気使用量 (単位: 千kWh)
- ・834千kWh



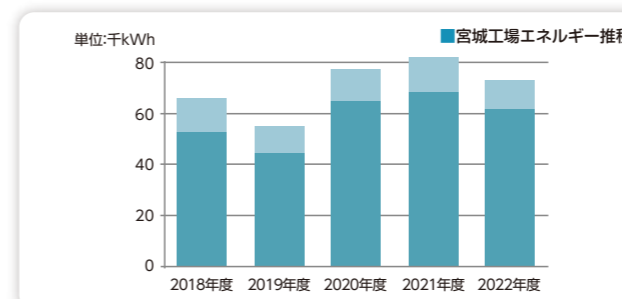
- 2022年度CO₂ 排出量 (単位: トン)
- ・387トン



■エコカー導入による環境配慮

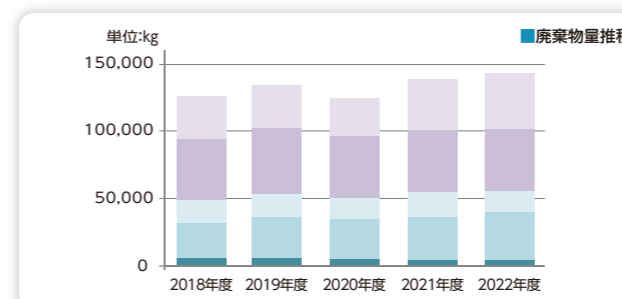
- ・社有車のハイブリット化促進

- 2022年度新規登録台数 : 51台
- ハイブリッド車 累計台数: 218台



■再生可能エネルギーの利用

- 2022年度実績
- ・太陽光発電 : 61千kWh
- ・風力発電 : 11千kWh
- ・宮城事業所全体比: 1.98%



■廃棄物の削減

- 2022年度排出量: 142,336kg
- 前年比: 4,659kg 増加





ホーチキ株式会社

発行: 広報宣伝室

〒141-8660 東京都品川区上大崎2-10-43 TEL: 03-3444-4111 (代表) <https://www.hochiki.co.jp>

ホーチキグループCSR報告書2023(2022年度)をご覧いただきありがとうございました。また編集にあたり多くの方にご協力をいただきましたことに御礼申し上げます。グループ会社を含めたCSR活動をよりわかりやすく説明し、お客様、従業員、お取引先、地域住民、株主など幅広いステークホルダーとのコミュニケーションの促進につながればと思います。

私たちホーチキは、製品やサービスを通し、災害による犠牲者がゼロの「世の中」を目指し挑戦し続けて参ります。ステークホルダーの皆さまにホーチキグループのCSR活動へのご理解をいただければ幸いです。

2024年3月

2024年3月発行(年1回発行)